

## Ⅲ 活動記録

### 1 展覧会

- ・出品リストについては、他館所蔵家作品のみ詳細を掲載した。
- ・所蔵先、及び講師の所属は開催当時のもの。

#### 特別展 「美しきおもかげ 一物語の女性たち」

清方は、戯作者であり新聞人でもある父・條野採菊や、芝居好きな母親、草双紙を読み聞かせてくれた祖母などの影響を受け、幼い頃より文学と芝居に親しみながら育った。画家となつてからは、挿絵画家として多彩な登場人物を描き分けるほか、浮世絵の研究にも努め、豊かな人物表現を身につけた。

文章に綴られ、また、舞台上で演じられる物語を深く理解した清方により、登場人物の心情に心を寄せて描かれた作品群は、清方芸術の特徴の一つとなっている。

本特別展では、文学や芝居に精通した清方が、自らの琴線に触れた物語の女性たちを描いた作品を通して、近世から近代にかけての詩情豊かな物語世界を紹介した。



会期 令和4年4月14日(木)～5月18日(水)

(開館日数:31日)

総入館者数 2,386人(一日平均:77人)

#### 関連事業

市民講座【開催期間】4月19日(火)～23日(土)

- 19日(火)篠原 聡「これからの博物館」 20日(水)今西彩子「《築地明石町》三部作の魅力」  
21日(木)鏑木祐子「清方と鏡花作品の女性たち」 22日(金)鏑木祐子「清方と「たけくらべ」の美登利」  
23日(土)今西彩子「「没後50年 鏑木清方展」の鑑賞ポイント」

展示解説動画(オンライン)【公開期間】5月6日(金)～18日(水)(解説:鏑木祐子)

#### 関連記事

「物語の女性たちを描く 鎌倉 鏑木清方の日本画展」(東京新聞 5月2日) 他 7件

#### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
吉野山(『苦楽』表紙絵原画)	昭和23年	絹本着色・額	28.5×27.3	木原文庫蔵
野崎村	昭和13年頃	絹本着色・軸(双幅)	(各)118.3×33.4	木原文庫蔵
高尾	大正8年	絹本着色・軸	143.5×50.5	木原文庫蔵
辰橋の小百合(芝居十二ヶ月の内) (『新演藝』口絵原画)	大正6年	絹本着色・額	34.3×24.0	木原文庫蔵
おかる	昭和9年	紙本着色・軸	115.5×27.8	木原文庫蔵
鶴八	昭和28年頃	絹本着色・額	50.6×55.7	東京国立 近代美術館蔵

【所蔵品】

「梅蘭芳 天女散華」「女役者糸八」「カルメン」「道成寺」「砧」  
「たけくらべ(『現代名作集 別巻』)口絵原画」「高野聖(『現代名作集 別巻』)口絵原画」  
「先代萩(一)」「先代萩(二)」

下絵 「野崎村」「春宵怨」「日高川 道成寺」「たけくらべ(霜の朝)」「たけくらべ(つり忍)」「舞踊道成寺」  
「紅梅屋敷(『苦楽』表紙)」「田舎源氏(『苦楽』表紙)」「高尾ざんげ(『苦楽』表紙)」「お蝶夫人」

スケッチ 「江木ませ子」「《築地明石町》のためのスケッチ」「河合の丁山」

『文藝俱樂部』口絵	「小春」「時代美人風俗雙六」
『新小説』口絵	「起誓文」「舞の袖」
『新演藝』口絵	「額の小さん(芝居十二月の中)」 「濡衣(芝居十二月)」「芝居美人畫譜 六『つや物語』の丁山」
『演藝俱樂部』口絵	「三ッ股川の高尾」
『婦人俱樂部』口絵	「鳴沢宮の像(金色夜叉)」
『歌舞伎』	「英獅子(第 24 号表紙・裏表紙/校正摺)」・第 24 号表紙装丁、 「蜘蛛の振舞(第 25 号挿絵)」「二条院讃岐狂乱の図(第 23 号挿絵)」 「兼房小紋に蘆と鷺(第 26 号表紙・裏表紙/校正摺)」・第 26 号表紙装丁、 「伊左衛門の紙衣と編笠(第 28 号表紙・裏表紙/校正摺)」・第 28 号表紙装丁、 「伊井河合の舞台面(第 31 号挿絵)」
『苦楽』表紙	「紅梅屋敷」「田舎源氏」「高尾ざんげ」
『苦楽』	「名作絵物語 金色夜叉」
泉鏡花著作口絵	『三枚續』『式部小路』(差上げ)『戀女房』『無憂樹』
幸田露伴著作口絵	『天うつ浪』第四卷(未刊)
尾崎紅葉著作口絵	『続編金色夜叉』(復刻版)
その他口絵	「お蝶夫人」
木版画譜	「注文帳畫譜」
資料	「築地明石町の船・詞」

## 特別展 「日本画の美 —清方とゆかりの画家たち—」

人々のなにげない暮らしが描かれた清方作品には、繊細な筆の運びや江戸前の粋で絶妙な配色から生み出される、豊かな四季の香りが充溢している。

清方は師・水野年方から作画の基礎を学び、やがて自ら浮世絵の研究に専心して独自の画境を築いた。その歩みは歌川国芳から水野年方、そして自身にまで至る歌川派の系譜をひくという自覚に端を発し、同志との切磋琢磨や、同時代を生きる日本画家たちの幅広い交流などに大きく影響を受けている。

本特別展は、余白に漂う詩情や枯淡な墨の表現など、日本画ならではの美に触れていただくことを狙いとし、日本画美術同好会コレクションの中から、清方を中心に小杉放菴や山口蓬春など関連する画家たちによる優れた作品を紹介した。



会期 令和4年5月21日(土)～6月26日(日)

(開館日数:31日)

総入館者数 2,886人(一日平均:93人)

### 関連事業

美術講演会「清方の師・水野年方 —浮世絵と日本画の架け橋」

【講師】日野原健司氏(太田記念美術館主席学芸員)

【開催日】6月14日(火)

日本画ワークショップ「土絵具を使って、絵を描こう！」

【開催日】6月19日(日)

### 関連記事

「日本画の美 —清方とゆかりの画家たち」(博物館研究 Vol.57 No.5)

「鑑真清方記念美術館 日本画の美 ～清方とゆかりの画家たち」(広報かまくら5月号)

他8件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
春宵	明治 44 年頃	絹本着色・軸	113.5×41.6	日本画美術同好会蔵
土手の春雨	大正 14 年	絹本着色・軸	126.3×40.5	日本画美術同好会蔵
矢の根五郎	昭和 3 年	紙本着色・軸	49.1×57.4	日本画美術同好会蔵
木蔭の泉	昭和 42 年	紙本着色・額	56.9×41.5	日本画美術同好会蔵
端居	大正末	絹本着色・軸	25.8×35.8	日本画美術同好会蔵
五十鈴川	昭和 18～19 年	絹本着色・額	68.1×84.5	日本画美術同好会蔵
小杉芳庵「老子」	昭和期	紙本着色・軸	46.0×51.8	日本画美術同好会蔵
山口蓬春「八重の花」	昭和 21 年	絹本着色・額	25.5×23.4	日本画美術同好会蔵
小杉放菴「雀乃宿」	昭和期	紙本着色・軸		日本画美術同好会蔵
伊藤小坡「観桜美人之図」	制作年不詳	紙本着色・軸	46.0×50.8	日本画美術同好会蔵
伊藤小坡「紅葉狩」	制作年不詳	絹本着色・軸	118.0×27.8	日本画美術同好会蔵

【所蔵品】

「小楠公弁の内侍を救う」「雨華庵風流」「夏すかた」「五十鈴川」「紫陽花」「ふたつあちさみ」「山百合」

「手賀沼」「游心庵漫筆」「君ヶ寄漫筆」、水野年方「橘逸勢女」

下絵 「筆捨松と一立齋広重」「紫陽花の谷」「抱一のあさり」(2 点)

小下絵 「霽れゆく村雨」

スケッチ 「木槿」「霽れゆく村雨」「雨夜の星」「立葵」「つゆ草」「金沢風景」「金沢」「江の島」

「小田原天神山からの風景」「大磯千畳敷」「由比ガ浜」「金沢のあさり」「鯛」

「模写 喜多川歌麿作「當世踊子揃」の内「道成寺」」「透写 「うつしもの集 壺」より

「透写 西川祐信作「絵本 玉かつら 上の巻」享保 21 年(1736)」

水野年方「清方像」

『婦人画報』口絵

「流るゝ水」

『婦女界』口絵

「虹」「李の花」

『淑女画報』口絵

「若葉の香」

『文藝倶楽部』口絵

「梅雨晴」「汐干狩」「白魚」「ひともし頃」「湯治場」

『家庭雑誌』口絵

「菜園の紅玉」

『今様夏の巻』口絵

「五月雨」

『画集 東京と大阪』

「明石町(「東京 築地川」)」「船住居(東京 築地川)」「瀬化ける(東京 築地川)」

「氷店(東京 築地川)」「紫陽花の垣(東京 築地川)」「作者(東京 築地川)」

『鏑木清方繪入本 御濠端』

「柳の井」

絵葉書

「霽れゆく村雨」

資料

「濠端十二景 柳の井」

## 企画展 「夏から秋へ―季節のよそおい―」

清方が描く女性たちの装いは、美しさや華やかさを表現するだけでなく、描かれた時代や季節を表わし、人物の人となりを表わすものでもあった。江戸文化の名残をとどめる東京の下町で育まれた感性と、時代風俗のたゆまぬ研究によって描かれた和の装いは、清方の美意識の結晶ともいえる。

なかでも清方がこよなく愛したのは、白と藍とが織りなす浴衣の情趣であった。清方の心の中で浴衣は、古きよき時代の夏の情景と深く結びついている。

本企画展では、夏から秋にかけての季節の装いを描いた作品を、清方が考案した浴衣地や描き絵を施した絹の着物とともに紹介した。

会期 〈前期〉令和4年7月2日(土)～8月7日(日)  
〈後期〉令和4年8月11日(木・祝)～9月11日(日)  
(開館日数:60日)

総入館者数 2,896人(一日平均:48人)



### 関連事業

「夏休み親子観賞」小・中学生及び同伴者観覧無料、小・中学生対象解説書配布

【開催期間】7月2日(土)～9月11日(日)

小・中学生及び同伴者観覧無料、小・中学生対象解説書配布

「子どもたちが美術館で楽しく過ごすための動画」上映

【開催期間】7月2日(土)～9月11日(日)

親子ワークショップ「親子で美術館へ行ってみよう！」

【開催日】7月27日(水)

「着物で楽しむ美術館」

【開催期間】7月2日(土)～8月7日(日)、8月11日(木・祝)～9月11日(日)

着物で来館された方を対象に入館料を割引

日本画ワークショップ「日本画材を使って、うちわに絵を描こう！」

【開催日】7月17日(日)

夏休み子ども参加プログラム・日本画「日本画の技法、垂らし込みを使って、絵を描いてみよう！」

【開催日】7月28日(木)、29日(金)

夏休み子ども参加プログラム・石版画「石版画の仕組みを体験してみよう！」

【講師】稲田大祐氏(相模女子大学教授)

【開催日】8月4日(木)、5日(金)

「楠木清方誕生日記念イベント」

【開催期間】8月28日(日)～9月3日(土)

先着10名様に絵葉書3枚セットをプレゼント

展示解説動画(オンライン) 【公開期間】9月1日(木)～11日(日)(解説:小林美香)

### 関連記事

「江戸趣味映す 妻への留め袖 私のイチオシコレクション」(7月5日 朝日新聞)

他14件

### 出品作品(前期のみ)

「襟おしろい」「夏の思い出」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「ゆかた」「清子四歳像」「柳の下に涼む娘」  
 鐘木照「さゝ蟹」  
 下絵 「霽れゆく村雨」「のれん(夏姿)」「七夕(左隻)」「夏ざしき」「風鈴」  
 スケッチ 「向日葵」「トロアオイ、朝顔、露草」「玉蜀黍」「白粉花」

### 出品作品(後期のみ)

「桜もみぢ」「秋草」(当館寄託)「虫の音」「初雁の御歌」  
 下絵 「瀧野川観楓」「明治の女」(2点)「客間」「蟹と童」  
 小下絵 「桜もみぢ」  
 スケッチ 「日光の百合」「竜胆」「菊」「野葡萄」「蝦夷菊」  
 口絵 「観菊」  
 他 清方意匠「黒縮緬地千鳥模様留袖」

### 出品作品(前後期)

下絵 「茶の間の秋」  
 スケッチ 「江戸調度品」「櫛」「島田」「束髪」「《桜もみぢ》のためのスケッチ」「貝母」「トラノオ、蟹」  
 「百日紅」「川開きの夜」  
 『東京 築地川』 「伊達家水門」「亀井ばし」  
 『新小説』口絵 「起誓文」「空虚」「胡蝶之曲」「瓔珞品」  
 『講談雑誌』口絵 「盆提灯(清方畫譜の七)」「恋の湊(清方畫譜の八)」「秋のおとずれ」  
 『少女界』口絵 「海水浴」 『少年界』口絵 「秋の山」  
 『婦人世界』口絵 「星多き夜」  
 柳川春葉著作口絵 「母の心」 菊池幽芳著作口絵 「百合子 中編」  
 渡邊霞亭著作口絵 「新渦巻 光子の巻」 泉鏡花著作口絵 「神鑿」  
 小栗風葉著作口絵 「戀無常」 口絵 「思ひ出」  
 扇子 「凌霄花に蜻蛉」「清方・筆 朝顔」「清方・筆 芙蓉」  
 団扇 「美人 露草」「美人 のれん」「美人 日傘」  
 浴衣 「清方・意匠 浴衣(紫陽花柄)」  
 浴衣地 「紺木綿地鷺草模様浴衣地」「白木綿地桜に蝶鳥模様浴衣地」  
 「『主婦之友』懸賞浴衣 薄黄木綿地蔓花模様浴衣地」  
 「白地藍方染(陰陽) 柏葉模様浴衣地」  
 「『主婦之友』懸賞浴衣 白木綿地桜に蝶鳥模様浴衣地」  
 帯地 「清方・筆 帯地(紅葉)」「清方・意匠 帯地(桜もみぢ)」  
 付帯 「清方・筆 付け帯(菊・露草)」  
 図案・原画 「千鳥柄黒留袖 図案」「清方・筆 着物図案」  
 「清方・筆 着物図案 前見頃・後見頃」「紺木綿地鷺草模様浴衣地・原画」  
 他 「清方・筆 紹地扇面描絵柄江戸褌」「藍地植物模様白上げ浴衣地仕様四方布」  
 「清方旧蔵 はこせこ・簪」

## 特別展 「渡辺省亭生誕 170 年記念 鏗木清方と渡辺省亭 一江戸画人の水脈一」

繊細かつ洒脱な画風で異才を放った渡辺省亭(1852～1918)が描き出した江戸情緒や身近な四季の移ろいは、「省亭風」と呼ばれ明治・大正の市井の人々に愛された。近年の研究により、その画業が紐解かれ、再評価されている。

清方は 13 歳で挿絵画家をころごす前から、本や雑誌に載せられた省亭の口絵や挿絵に接し、その清新な画風に魅せられていた。省亭に花鳥画を学んだことのある水野年方入門して研鑽を積み、やがて流麗な線描と情緒豊かな作風で挿絵画家、日本画家として名を馳せるようになる。省亭の作品を蒐集して自宅の床の間に飾り、晩年まで省亭に私淑した清方。「省亭は、年方に直結して、間接には私にまで及んでゐる」(『こしかたの記』)と、省亭からの影響を随筆の中でも語っている。

本展覧会では、省亭と清方の作品を並べて紹介し、省亭から清方へと連なる美の伝承を辿った。



会期 令和4年9月15日(木)～10月19日(水)

(開館日数:31日)

総入館者数 2,889人(一日平均:93人)

### 関連事業

日本画ワークショップ「砂子を用いて、日本画を描こう！」

【開催日】9月18日(日)

日本画ワークショップ「隈取りの技法を使って、墨絵を描こう！」

【開催日】10月15日(土)

展示解説動画(オンライン)

【公開期間】10月9日(日)～19日(水) (解説:今西彩子、柴田美貴)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和4年10月1日(土)～令和5年3月31日(金)

### 関連記事

「江戸っ子の連なり 私淑の深さを知る」(10月3日 産経新聞)

「鏗木清方と渡辺省亭 一江戸画人の水脈一」(美術の窓9月号)

他7件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
渡辺省亭「向島雪景色」	制作年不詳	絹本着色・軸	107.8×35.5	個人蔵
渡辺省亭「御殿山観花図」	制作年不詳	絹本着色・軸	117.5×44.2	個人蔵
渡辺省亭「松竹梅」	大正4年	絹本着色・軸	137.5×49.5	個人蔵
渡辺省亭「牡丹に蝶の図」	明治26年	絹本着色・軸	143.6×69.4	個人蔵
渡辺省亭「龍頭観音」	明治12年	絹本着色・軸	40.3×12.1	個人蔵
渡辺省亭「六字名号・七字題目」制作年不詳		絹本着色・軸 (双幅)	(右)108.5×28.0 (左)108.3×27.8	個人蔵
渡辺省亭「四季の風景」『日本画譜』第二帙(日本堂) 12点(水野年方旧蔵)				
	明治23年	木版摺	(各)17.5×23.7	個人蔵
水野年方「小栗風葉・著『恋慕ながし』口絵」(水野年方旧蔵)				
	明治33年	木版口絵・額	22.2×28.5	個人蔵
水野年方「泉鏡花・著「外科室」『文芸倶楽部』第1巻第6号口絵」(水野年方旧蔵)				
	明治28年	木版口絵・額	23.7×29.2	個人蔵
水野年方「今様美人 五 菖蒲」(水野年方旧蔵)				
	明治31年	木版・額	21.0×31.0	個人蔵
水野年方「今様美人 十 はまあそひ」(水野年方旧蔵)				
	明治31年	木版・額	21.0×31.0	個人蔵
菊池容齋/松本楓湖『菊池容齋画譜 乾之巻』より田家図 左」(水野年方旧蔵)				
	明治24年	木版・和綴じ本	28.7×34.0	個人蔵
菊池容齋/松本楓湖『菊池容齋画譜 坤之巻』より芳野山観花図」(水野年方旧蔵)				
	明治24年	木版・和綴じ本	28.7×34.0	個人蔵

【所蔵品】

「孤児院」「寒月」「浅みどり」「清流」「雑司ヶ谷会式」「栗をむく娘」「砧」

下絵 「水声」「雨華庵風流」「街頭風景」「柿と童」

スケッチ 「栗」「柘榴」

『文藝倶楽部』口絵 「花吹雪」「あさ露」「よき事きく」「こほろぎ」「ゆふ暮」「夜長」「こすもす」

『美術世界』(春陽堂) 渡辺省亭 「絵馬考」「都門新年雑景凧鳥追」「雪夜宿鴉図」「晩春雑景絲燕桜散椿」

「昔嘶桃太郎図」「幕府時代仕女図」「初夏墨堤月景」「花菖蒲図」「鯉魚図」「鮒」

「雨中紫陽花図」「浅草観世音出現の図」「初秋景物葡萄菓図」「龍頭観音図」

「巖角靈龜図」「三聘始めて應ず」「蘆渚泊舟図」「雑景春雨蛙落花」「雀啣落花」

水野年方 「赤羽」「新年将到」、

柴田是真 「盃中龜踊る図」、

卷の二十～二十二 3冊(清方旧蔵)

坪内逍遥著作口絵 渡辺省亭「牧の方」(春陽堂)(水野年方旧蔵)

菊池容齋『前賢故實』 「一 上冊・下冊」「三・下冊より橘逸勢女」(共に清方旧蔵)

資料 「水野年方 肖像写真」「渡辺省亭 肖像写真」(共に清方旧蔵)



## 特別展 「清方の大正時代 —至上の美を求めて—」

今から 110 年前、時代が明治から大正へと移る頃、鏑木清方は挿絵画家から日本画家へと転身を図ろうとしていた。大正 3 年(1914)に、文部省美術展覧会で 2 等賞を受賞した《墨田河舟遊》が文部省買い上げとなり、翌 4 年(1915)には《霽れゆく村雨》が 2 等賞首席を受賞。日本画家として、また、浮世絵の流れをひく美人画家として、その地位は確かなものになった。

しかし、その後も清方は新たな芸術の道を探り続ける。仲間と結成した美術団体・金鈴社では、同世代の画家からの影響を受け風景画に傾倒し、弟子たちが中心となって結成した郷土会では社会画としての風俗画のありようを模索した。こうした大正時代の歩みは、人物の美と風景の美が融合し、豊かな叙情性をたたえた名作、《築地明石町》(昭和 2 年)の誕生へとつながっていった。

本特別展では、清方芸術の萌芽ともいえるべき大正期の制作に着目し、新たな創作の展開を試みた作品を中心に紹介した。



特別展  
**清方の大正時代**  
至上の美を求めて  
Kiyokata in the Taisho Period:  
Searching for the Expression of His Own

令和4年  
10月22日[土]~  
11月27日[日]

開催期間 年度末から年度初めにかけて開催(9月23日~)

休館日 無休(祝日、11月15日(火))

観覧料 一般 450円(税込)  
小・中学生 220円(税込)  
※10歳未満は無料

主催 公益財団法人鎌倉記念美術館(協賛) 鎌倉市立歴史博物館(協賛)

22 October –  
27 November, 2022  
[Hours: 9:00-17:00 (Admission until 16:30)]  
Closed on Mondays, 15 Nov.  
[Admission]  
Adults ¥450 (¥495)  
Elementary and Junior High School Students ¥220 (¥255)  
\*Group discount fee for 20 or more people is shown in parentheses.

鏑木清方 (1879-1972)  
明治から大正にかけて活躍し、大正時代初期の日本画界を代表する一人として活躍した。挿絵から日本画へと転身し、大正時代の歩みを探る。本展では、清方の大正時代の歩みを探る。本展では、清方の大正時代の歩みを探る。

鎌倉市立歴史博物館  
〒230-0292 神奈川県鎌倉市鶴岡町1-1-1 電話:044-822-1111  
http://www.kanagawa-museum.or.jp/kiyokata/

会期 令和4年10月22日(土)~11月27日(日)

(開館日数:31日)

総入館者数 2,372人(一日平均:77人)

### 関連事業

美術講演会「大正デモクラシーのなかの清方」

【講師】角田拓朗氏(神奈川県立歴史博物館主任学芸員)

【開催日】11月15日(火)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和4年10月1日(土)~令和5年3月31日(金)

### 関連記事

「鏑木清方記念美術館特別展「清方の大正時代 —至上の美を求めて—」(10月20日 鎌倉 TODAY)

他 8 件

### 出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
野路の玉川	大正7年	絹本着色・軸	136.3×50.6	光ミュージアム蔵
江の嶋	大正6年	絹本着色・屏風 (八曲一隻)	133.0×364.0	個人蔵
如月の花	大正13年	絹本着色・軸	124.0×36.0	光ミュージアム蔵
葛飾早春	昭和10年	絹本着色・軸	127.5×42.5	光ミュージアム蔵
権八小紫	大正12年	絹本着色・軸	143.0×50.5	光ミュージアム蔵
深川冬木 池畔の雨	昭和3年	紙本着色・軸	50.5×57.0	光ミュージアム蔵
角田川舟遊	大正5年	絹本着色・軸	129.7×41.6	個人蔵

## 【所蔵品】

「子供二人」「童」※初公開 「風景(池)」「大和路の或る家」「龍膽」

オットマン「自転車乗りと漁船」※初公開

下絵 「薄雪」「霜葉<桜の霜葉>」「今様絵詞の会 金の井の李月夜 江戸川べり」  
「今様絵詞の会 金の井の李月夜 庄屋やしき」「今様絵詞の会 行徳の常夜燈」  
「今様絵詞の会 金の井の李月夜 主なき大広間」「今様絵詞の会 金の井の李月夜 詞」  
スケッチ 「築地明石町の船」「大宮」「雑司ヶ谷」(2点)「金沢」(2点)「朝涼構想」「大磯」  
「太閤石風呂」「錦木・サルトリイバラ・菊」「あけび」「蜻蛉」

『講談雑誌』口絵 「娘ざかり」「九月の海(清方畫譜の九)」「旅愁(清方畫譜の十)」  
伊東深水作「微酔(深水畫譜の四)」「秋の女(深水畫譜の十一)」  
西田青坡作「棧敷」  
山川秀峰作「宵」  
寺島紫明作「有明」

『婦人画報』口絵 「秋の旅」「秋漸く深し」「秋の雲」

『婦人世界』口絵 「散るいてふ」

『婦女界』口絵 「郊外生活」

『淑女畫報』口絵 「阿蘭陀船」「傳奇小説」

『少女界』表紙 「コスモス」

『少年界』表紙 「画題不詳(第8巻第9号)」

『文藝俱樂部』表紙 「海風」

『婦人之友』表紙 第32巻第12号

『清方美人畫譜』 「濱町河岸の秋」(木版)「湖のほとり」(原色版)「島田くづし」(原色版)  
「青き星」(原色版)「午後の海」(原色版)

渡邊霞亭著作口絵 『勝鬨 前編』

小栗風葉著作口絵 『戀学生』

その他口絵 「かりがね」

その他木版 「濠端十二景 第二 柳の井」

『画集 東京と大阪』 「明石町」(「東京 築地川」)

資料 「平福百穂作品図版」(参考『鏑木清方と金鈴社』より)

「南宗名畫苑 第十八輯」(清方旧蔵)

鏑木清方他意匠「器」※初公開

## 企画展 「冬の輝き—美人画と押絵羽子板—」

清方が特に好んだ季節と言えば夏、というイメージがあるが、冬についても毛嫌いすることなく描いている。随筆には「冬をさう厭はしく思ふことはなかつた。第一好きな雪が降る。」(『鏗木清方文集 四 春夏秋冬』)と綴られており、落ち葉焚きや小雪の舞う墨田川など凛とした冬の美しさを好んで描いた。また、年の暮れから新年の賑わう街と人々の様子にも趣を感じ、古きよき新春の風景も作品や口絵に描いた。

本企画展では、冬景色に取材した作品とともに、名押絵師・永井周山が清方作品を意匠化した押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」を紹介した。

会期 令和4年12月2日(金)～令和5年1月9日(月・祝)  
(開館日数:29日)

総入館者数 2,015人(一日平均:69人)



### 関連事業

日本画ワークショップ「日本画材で羽子板に絵を描こう！」

【開催日】12月18日(日)

「新春福引きで運だめし！」

【開催期間】1月4日(水)～1月9日(月・祝)

来館者全員に景品が当たる福引きを実施

「鎌倉・葉山 近代日本画家の旧居跡めぐり」

【開催期間】1月5日(木)～2月26日(日)

山口蓬春記念館との連携事業

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和4年10月1日(土)～令和5年3月31日(金)

### 関連記事

「企画展 冬の輝き 美人画と押絵羽子板」(12月9日 神奈川新聞)

他8件

### 出品作品

「落葉焚く」「歳旦」「風景(里)」「春や昔」「狐狗狸」「二人静」「恵方詣」「宝船」「宝珠」「小槌」「白梅」「雪兔」、  
榎本千花俊「羽根の禿」※初公開、山川秀峰「春駒」※初公開

下絵 「松の内」(『苦楽』表紙下絵)「春を待つ」(『苦楽』表紙下絵)

スケッチ 「うさぎ」「御殿場からの富士」「瑞泉寺の橙」「大川雪景色」「積雪の庭木」「七草」「芸者」

『文藝俱樂部』口絵	「春を待つ」「餅むしろ」
『講談雑誌』口絵	「初夢(清方畫譜の一)」
『文藝界』口絵	「都大路」
『新小説』口絵	「幕あひ」
『婦人世界』口絵	「元日の朝」「新夫人」「さくら色」
『婦人畫報』口絵	「暗香」「朝晴雪」「雪の兎」
『大正婦人』口絵	「初東風」
『少女界』口絵	「クリスマス」「爐邊の少女談話會」「初雪」
菊池幽芳著作口絵	『小ゆき』(後編)
渡辺霞亭著作口絵	『渦巻』(続編)
その他口絵	「雪積む宵(名畫十二ヶ月その二)」「年始まわり」「楽しき贈り物」
『苦樂』表紙	「紅椿」「雪」「曇」「松の内」「春を待つ」
『少女世界』附録	「少女出世雙六」※初公開
『少女界』附録	鏑木清方・富田秋香合作「少女修学旅行雙六」
『文藝俱樂部』附録	「新案雙六當世二筋道」「時代美人風俗雙六」 鱒崎英朋・鏑木清方合作新年大附録『松の内』
東京朝日新聞附録	「風俗美人画(一)松の内」
風呂敷	「扇面に梅と竹」「うさぎ」「凧と梅」「扇面に松と飴や」
ふくさ	「氷梅(ふくさ・原画)」「清方・筆 振り振り 大ふくさ」
資料	永井周山作・押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」「清方・意匠 鶯娘 衣裳」※初公開 「清方意匠 年賀状」

## 企画展 「うつりゆく時代を見つめて—江戸から東京へ—」

清方は、明治11年(1878)に東京の神田佐久間町に生まれ、江戸の風情の残る京橋木挽町で幼少期を過ごした。その後、本郷湯島、日本橋浜町、牛込矢来町などへ居を移すが、東京を離れることはなく、初めて東京を離れたのは、昭和19年(1944)、66歳で茅ヶ崎へ疎開した時であった。

江戸の文化に強く惹かれていた清方は、浮世絵師の鈴木春信、勝川春草らに私淑し、彼らが描く女性の美しさと風俗を熱心に研究、作品へと昇華させた。その江戸情緒あふれる作品は、日本画壇で高く評価され、今日に至るまで多くの人を魅了している。

本企画展では、明治から昭和を生きた清方が、時代とともに大きく変わっていった東京の街を描いた作品や江戸の風俗を描いた作品を中心に紹介した。



会期 令和5年1月14日(土)～2月26日(日)

(開館日数:38日)

総入館者数 1,937人(一日平均:51人)

### 関連事業

「着物で楽しむ美術館」

【開催期間】1月14日(土)～2月26日(日)

着物で来館された方を対象に入館料を割引

「鎌倉・葉山 近代日本画家の旧居跡めぐり」

【開催期間】1月5日(木)～2月26日(日)

山口蓬春記念館との連携事業

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和4年10月1日(土)～令和5年3月31日(金)

### 関連記事

「企画展 うつりゆく時代を見つめて—江戸から東京へ—」(2月9日 朝日新聞神奈川マリオン)

「鈴木清方記念美術館 展覧会情報」(ギャラリー 453号)

他 8件

### 出品作品

「暮れゆく沼」「新大橋之景」「布晒し」※初公開「比伊奈」「春の立場茶屋(金沢春景)」「金沢春雨」「太夫」

「風景(金沢・瀬戸)」「道行浮埒鷗」「寺子屋画帖」「教誨」

下絵 「雪旦」「慶喜恭順」「鯛」「抱一のあさり」「築地川みちしほ」「築地川界限 軽子橋」

「築地川界限 佃の渡」「築地川界限 明石町」「築地川界限 合引橋」

小下絵 「讃春(右隻・左隻)」  
 模写 「勝川春章「婦女風俗十二月」の内四月 杜鵑」「喜多川歌麿「當世踊子揃」の内 鷺娘」  
 「喜多川歌麿「當世踊子揃」の内 道成寺」「喜多川歌麿「當世踊子揃」の内 三番叟」  
 「勝川春章・一筆斎文調『絵本芝居扇』の内」「江戸初期・中期浮世絵」  
 スケッチ 「雨夜の星」「巢鴨」「暮れゆく沼」「亀井戸の梅」「雑司ヶ谷」「堀切 小高園」「佃の渡」「清洲橋」  
 「東京駅」「目黒不動茶屋」「雨の千住 汐入堤下にて」「王子稻荷の滝」「雪の松 矢来にて」  
 「隅田川 我が家の対岸」「麦藁蛇」「千木筥と生姜」

『東京 築地川』 「鉄砲州」「船住居」「佃島」「築地橋」  
 『清方美人畫譜』 「白壁」  
 『文藝俱樂部』口絵 「緋桃」「雛壇の下」  
 『新小説』口絵 「瑞香(百花百姿)」「祝い月 東京風俗」「虎ノ門 見立十二姿の内」  
 『講談雑誌』口絵 「朝寒(清方畫譜の十一)」  
 『講談世界』口絵 「千代田の大奥」  
 『演藝俱樂部』口絵 「茶屋の二階」  
 『俗曲評釈』口絵 「道成寺(江戸唄)」  
 「助六(河東)」  
 『苦楽』表紙 「湯の宿」  
 その他口絵 「舞子の浜」  
 江戸期和綴じ本 『江戸名所図会』より「瀬戸橋 旅亭東屋」「深大寺蕎麦」「梅屋敷」、  
 『絵本續江戸土産』(復刻版)より「永代橋の風景」、  
 『東海道風景図会』より能見堂筆捨松、『草筆画譜』より金沢八景  
 書籍 『築地川』装丁、『御堀端』より「柳の井」、『蘆の芽』より「今井橋」  
 参考資料 《讃春》図版(『上村松園と鏑木清方』展図録)

## 企画展 「花咲くよろこび—清方が描いた花々—」

清方は、人物と植物を一緒に描く際、その調和を重んじていた。人物とそれを彩る植物の究極の取り合わせを追求し、草花の種類や色合い、大きさにまで気を配った。

常にスケッチ帳を手元に置き、庭に咲く草花や虫の声、気候の中を感じ取った季節の移ろいをつぶさに写生していた清方。折に触れて描かれたスケッチには、その時々心動かされた草花や風景、人物が数多く残され、それらを作品制作に生かしていたことをうかがい知ることができる。

本企画展では、美人画や季節の草花を描いた作品とスケッチのほか、花をデザインした本の装丁を紹介した。



会期 令和5年3月3日(金)～4月9日(日)

(開館日数:33日)

総入館者数 2,395人(一日平均:73人)

### 関連事業

「春休み親子鑑賞」

【開催期間】3月26日(日)～4月4日(火)

小・中学生及び同伴者観覧無料、小・中学生対象解説書配布

日本画ワークショップ「浮世絵の多色摺り技法を体験してみよう！」

【開催日】4月1日(土)、2日(日)

「鎌倉文化ゾーン 小町通り・八幡宮エリアミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】令和4年10月1日(土)～令和5年3月31日(金)

### 関連記事

「花咲くよろこび —清方が描いた花々」(3月1日 鎌倉朝日)

他5件

### 出品作品

「早春」「舞妓」「嫁ぐ人」「しだれ桜」「砂浜少女」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「牡丹 一」「牡丹 二」「芍薬」「写生」

「春 明治風俗(未定稿)」「桜乙女」「崔承喜 二」「笠の曲(娘道成寺)」

「美人と芍薬」※初公開

下絵 「築地明石町」「五月雨」

スケッチ 「芙蓉」「芍薬」「藤」「傘を持つ女性」「桜」「萩」「牡丹の寺」「舞妓」

「小石川植物園の桜」「小石川植物園の水仙」

「小夜の中山 子育飴」「古奈 三津ヶ浜水族館」「照」(2点)

「メバル」「秋草」「鷺草」「睡蓮」「百合」「薔薇」「沈丁花」「林檎の花」「筍」「菖蒲」  
「梨の花 どうだん 小米花」

『文藝俱樂部』口絵 「花吹雪」「白鳥」「鸚鵡」「都鳥」  
『講談雑誌』口絵 「光のどけき(清方畫譜の四)」「浮いて鷗の(清方畫譜の三)」  
『九州日報』付録 「醜翻の花見」  
『家庭雑誌』口絵 「菜園の紅玉」  
『少女界』口絵 「おしろ酒」「五月雨」「花の蔭」  
『少年界』口絵 「ボート、レース」  
小杉天外著作口絵 『魔風戀風』(中編)  
小栗風葉著作口絵 『麗子夫人』(前編)  
渡辺霞亭著作口絵 『吉丁字』  
菊池幽芳著作口絵 『賣花娘』  
装丁 鐘木清方著『こしかたの記』(装丁・原画)『續こしかたの記』  
鶴見祐輔著『母』、  
市川三升著『市川團十郎を語る』、  
利倉幸一著『三津五郎舞踊藝話』